

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度										中期 目標
II-1-(2)-① 医療・救急体制の充実	1	③ ④	応急手当の普及啓発活動の推進	救急課	市民の救命効果の向上を図るため、AEDの取扱いを含めた応急手当の普及啓発活動を推進する。	応急手当講習の受講者数 ※中期目標改訂	4,632人 (R2年度)	目標 40,000 人	実績 11,405 人	達成率 28.5 %	30,000 人 (毎年度)	継続	2,287	976	減額	20,370	遅れ	新型コロナウイルス感染症対策のため、1回の受講定員を半数に制限する。 一方、応急手当の必要性をより多くの市民に理解していただくよう、講習で使用する資器材のデジタル化及び講習のオンライン化を行う。 【中期目標の変更内容】 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、受講者数を管理した上で実施するよう「応急手当講習の受講数の増加」から「30,000人」へ変更した。	順調	市民の救命効果の向上を図るため、AEDの取扱いを含めた応急手当の普及啓発活動を推進するとともに、計画的に救急救命士を養成する。
	2	①	救急体制の充実強化	救急課	質の高い救急救命処置を提供できる体制に向け、計画的に救急救命士を養成する。	高度かつ安全で確実・迅速な救命処置	—	目標 —	実績 —	達成率 —	高度かつ安全で確実・迅速な救命処置 (毎年度)	継続	15,157	14,735	維持	20,370	大変順調	計画的に救急救命士を養成し、救急体制の充実強化を図る。		
II-1-(4)-③ 総合的な消防防災体制の構築	3	①	自主防災活動の推進	予防課	地域防災力の向上を目的として、市民防災会の活動支援と訓練指導等を行う。	全193地区における市民防災推進行事への年1回以上の参加 *令和4年4月から192地区 ※中期目標改訂	—	目標 193 地区・回	実績 193 地区・回	達成率 100.0 %	全192地区・回 (毎年度) *令和4年4月から192地区	継続	6,596	6,596	維持	6,675	順調	市民防災会を対象に防災リーダー研修を実施するなど、地域防災力の向上のための支援・指導を行う。 【中期目標の変更内容】 小学校区が令和4年4月に合併し、地区が193区から192区となったため、変更した。	順調	地域防災力の向上を目的として、市民防災会の活動支援や訓練指導等を行う。 高齢者世帯等に対して住宅用火災警報器の設置促進や適切な維持管理の広報を行い、火災による被害の軽減を図る。 地域防災の拠点となる消防施設の耐震化を計画的に進めるとともに、魅力を感じる消防団づくりを推進し、入団促進を図る。
	4	①	住宅防火対策の推進	予防課	高齢者・障害者等の世帯への訪問を行い、防火・防災啓発に努めるとともに、火災や焼死事故等の防止に努める。	住宅用火災警報器の設置率	毎年度算出される全国平均設置率 R3: 83.1%	目標 全国の平均設置率と同程度	実績 87 %	達成率 104.7 %	全国の平均設置率と同程度	住宅用火災警報器の設置率向上 (毎年度)	継続	852	781	減額	22,400	順調	近年の焼死事故の状況を踏まえ、高齢者等を含む世帯に対して防火指導を継続するとともに、住宅用火災警報器の設置促進を図る。 また、住宅用火災警報器の設置義務化から10年以上が経過し、今後、電池切れの増加が見込まれることから、警報器本体の交換と定期的な点検・清掃の維持管理について啓発を強化する。併せて「無線式連動型」等の住宅用火災警報器の普及に向けた啓発を行う。	

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善					
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度									
II-2- (1)-③ 住み慣 れた地 域での 生活支 援	5	①	消防団の充実 強化	消防 団課	老朽化した消防 団施設の建替えを 計画的に進めると ともに、消防団の 装備の充実強化を 図る。 また、消防団員 の活動を積極的に PRするなど、消防 団への入団促進を 図る。	消防団施設整備に よる地域防災力の 向上	—	目標 3 施設	1 施設	1 施設	地域防 災力の 向上 (毎年 度)	継続	101,852	95,101	減額	5,470	順調	老朽化した消防団施設の建 替えを計画的に実施するとと もに、仕様変更した被服等を 計画的に配布する。 【中期目標の変更内容】 政令指定都市の充足率を比 較対象とするため、 「96.0%」から「政令指定都 市の平均充足率以上」へ変更 した。	
					消防団員の充足率 ※中期目標改訂	89.1% (R4.4.1)	目標 96.0 %	96.0 %	政令指定都市の 平均充足率以上	政令指 定都市 の平均 充足率 以上 (毎年 度)	継続	101,852	95,101	減額	5,470	順調	老朽化した消防団施設の建 替えを計画的に実施するとと もに、仕様変更した被服等を 計画的に配布する。 【中期目標の変更内容】 政令指定都市の充足率を比 較対象とするため、 「96.0%」から「政令指定都 市の平均充足率以上」へ変更 した。		
						89.1 %	実績 89.1 %	92.8 %											
II-2- (1)-③ 住み慣 れた地 域での 生活支 援	6	③ ①	あんしん通報 システム	予防 課	健康上特に注意 が必要な高齢者や 重度の身体障害が ある人等の家に火 災センサーやペン ダント型送信機を 付加した緊急通報 装置を設置し、火 災や救急事案等に 対し、迅速な対応 を行う。 また、緊急通報 に対する民間警備 員の駆けつけや医 療・福祉スタッフ の24時間の相談対 応により、高齢者 等が住み慣れた地 域で安心して生活 できるよう支援す る。	高齢者等の安全・ 安心な生活の実現	—	目標 —	—	—	高齢者 等の安 全・安 心な生 活の実 現(毎 年度)	継続	53,522	48,779	減額	9,050	順調	利用者全員が安心してサー ビスを利用できるよう安定的 な運営を推進する。	
							—	実績 —											
								達成率 —											あんしん通報システム設置 については、利用促進を図る とともにサービスの安定的な 運営を推進する。 いきいき安心訪問について は、防火・防災に関する指導 を強化するとともに、住宅用 火災警報器の設置を促進し、 高齢者の安全・安心の向上を 図る。新型コロナウイルス感 染症感染拡大が継続した場合 は、非対面式による広報活動 の検討を行う。
II-2- (1)-③ 住み慣 れた地 域での 生活支 援	7	①	いきいき安心 訪問	消防 団課	介護職員初任者 研修を修了した消 防団員が中心とな り、一人暮らし高 齢者世帯等を訪問 し、防火・防災や 家庭内での事故防 止の指導、簡単な 身のお世話を行 うとともに、福 祉に関する相談 を関係機関につな ぐなど、高齢者の 安全・安心の向上 を図る。	消防団員による年 間訪問世帯数	—	目標 2,464 世帯	2,464 世帯	2,240 世帯	火災や 重大事 故発生 の未然 防止 (毎年 度)	継続	8,840	8,736	維持	990	遅れ	住宅用火災警報器の設置・ 取り換えを促進し、高齢者の 焼死事故防止を図る。	
							—	実績 0 世帯											
								達成率 0.0 %											

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善						
施策番号・施策名	No.	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策 を構成する 主な事業・取組	主要 事業 所管 課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R4年度 予算額 (千円)	R5年度 予算額 (千円)	事業費 の増減	人件費 (目安) 金額 (千円)	R3年度 事業 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	R3年度 局施策 評価	R5年度に向けて 強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	
						指標名等	現状値 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度										中期 目標
II-3-(4)-② 国際協力・交流の推進	8	④ ⑩ ⑪ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰	【施策評価の み】 アジアの消防 リーダーとし ての国際協力	訓練 研修 センター	【施策の内容】 アジア地域の消 防関係者を受け入 れ、北九州市消防 局の消防・防災に 関する技術移転を 行う。	【施策の指標】 アジア地域からの 研修員受け入れ継 続	アジア 地域か らの研 修員受 け入れ 継続	目標 受入	実績 0 名	達成率 0.0 %	アジア 地域か らの研 修員受 け入れ 継続 (毎年 度)	継続	—	—	—	—	—	遅れ	アジア地域（海外）から研 修員を受け入れる性質上、新 型コロナウイルス感染症の影 響を受けやすい事業である が、引き続き国際協力機構 （JICA）と連携し、事業を進 めていく。	
III-2-(2)-② 市民の文化芸術活動の促進	9	④ ⑮ ⑯	消防音楽隊による文化活動	訓練 研修 センター	市主催の式典や 消防の各種行事等 に出演し、市民参 加向上の役割を担 うとともに、音楽 隊の演奏やカラー ガード隊の演技を 通じて、市のPR活 動や防火・防災啓 発活動を実施す る。 併せて、児童の 健全な育成等に寄 与することを目的 に、教育機関と連 携し、積極的に児 童教育に貢献す る。	消防音楽隊出演の 聴衆者数	91,895 人 (R1年 度)	目標 95,000 人	実績 6,145 人	達成率 6.5 %	95,000 人 (毎年 度)	継続	6,546	6,284	維持	4,615	遅れ	令和4年度に試行的に実施 した小編成での演奏活動を、 令和5年度から本実施とす る。 また、新型コロナウイルス 感染症の影響により休止して いるリバーウォーク北九州で の「水曜コンサート」は、新 型コロナウイルス感染症の拡 大防止対策をより万全にして 再開し、防火・防災啓発活動 を推進する。	遅れ	小編成での演奏活動など、 新型コロナウイルス感染症の 拡大防止対策を徹底した上 で、今まで休止していた活動 を再開し、消防の広報に努め る。 また、九州地区消防音楽隊 合同演奏会を本市で開催する 予定である。
VII-1-(3)-② 上下水道、消防、交通などの分野における国際協力の推進	10	④ ⑩ ⑪ ⑬ ⑭ ⑮ ⑰	【施策評価の み】 アジアの消防 リーダーとし ての国際協力	訓練 研修 センター	【施策の内容】 アジア地域の消 防関係者を受け入 れ、北九州市消防 局の消防・防災に 関する技術移転を 行う。	【施策の指標】 アジア地域からの 研修員受け入れ継 続	アジア 地域か らの研 修員受 け入れ 継続	目標 受入	実績 0 名	達成率 0.0 %	アジア 地域か らの研 修員受 け入れ 継続 (毎年 度)	継続	—	—	—	—	—	遅れ	アジア地域（海外）から研 修員を受け入れる性質上、新 型コロナウイルス感染症の影 響を受けやすい事業である が、引き続き国際協力機構 （JICA）と連携し、事業を進 めていく。	